



平成25年9月30日

各 位

会 社 名 株式会社 セキド
 代表者名 代表取締役社長 関戸 正実
 (コード番号 9878 東証第二部)
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 弓削 英昭
 (TEL. 03-6273-2053)

第2四半期業績予想との差異及び通期業績予想の修正並びに特別損益の計上に関するお知らせ

平成25年4月5日に公表した平成26年2月期第2四半期累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想並びに特別損益の計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異及び特別損益の計上について

平成26年2月期第2四半期(累計)業績予想数値との差異(平成25年2月21日～平成25年8月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,800	20	0	△15	△1.06
実績値(B)	5,790	△27	6	66	4.72
増減額(B-A)	△10	△47	6	81	
増減率(%)	△0.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成25年2月期第2四半期)	7,840	△268	△252	△482	△34.04

第2四半期(累計)業績予想数値との差異の理由及び特別損益の計上について

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府主導の金融緩和策や積極的な景気浮揚策などにより景況感の改善が見られました。一方で多くの生活物資を輸入に頼る我が国にとって円安による物価上昇や平成26年4月に予定されている消費増税などの影響も想定され、景気動向の先行きを見極める状況でありました。

当業界におきましては、好調な株式市場の追い風もあり、高額の腕時計や有名ブランドの装身具などが引き続き売上を伸ばしております。企業業績の改善がボーナスなどに反映し、個人消費を後押しする一方、円安の進行は一服し、輸入ブランド品の割高感も一巡する中、消費マインドの一層の改善が期待される状況で推移いたしました。

このような環境下、当社は、前事業年度に家電店舗販売事業から撤退し、輸入ブランド品を中心とするファッション商品の専門店として新たなスタートを切り、業績の改善に取り組んでまいりました。

店舗戦略では、3月の『GINZA LoveLove菖蒲店』の出店及び『GINZA LoveLove太田店』のリニューアルに続き、6月に旗艦店である『GINZA LoveLove』のリロケーション、7月に『GINZA LoveLove鶴ヶ島店』、8月に『GINZA LoveLove郡山店』及び『GINZA LoveLove諏訪店』のリニューアルを実施し、『GINZA LoveLove』ブランドによるブランディング戦略を推進してまいりました。

商品戦略では、引き続き好調な高額品の販売に注力するとともに、収益力アップを担うオリジナルブランドの中・低価格帯の商品開発にも注力いたしました。また、滞留期間短縮による商品在庫の鮮度アップと売れ筋在庫の品切れによる機会ロスの撲滅に取組み、幅広いお客様のご要望に応えられる品揃え、魅力ある売り場づくりに努めました。

販促戦略では、顧客管理システムで蓄積された顧客データ及び購買履歴データを特性ごとに分類し、新たな提案につなげる「クラスター分析」を活用し売上向上と販促コストの抑制に努めました。

なお、前事業年度末に計上した店舗閉鎖損失引当金のうち、当第2四半期累計期間に精算が完了または完了の見込みとなった店舗に係る退店コストの圧縮等により、45百万円の店舗閉鎖損失引当金戻入額を営業外収入として計上し

ております。また、前事業年度に発生した商品の盗難損失に対応する保険金78百万円の受入を特別利益として、一方、家電店舗販売事業撤退に係る中途解約違約金等の事業撤退損5百万円を特別損失として計上しております。

これらの結果、売上高は5,790百万円（前年同期比26.2%減）、営業損失は27百万円（前年同期は268百万円の営業損失）、経常利益は6百万円（前年同期は252百万円の経常損失）、四半期純利益は66百万円（前年同期は482百万円の四半期純損失）となりました。

2. 通期業績予想の修正について

平成26年2月期通期業績予想の修正（平成25年2月21日～平成26年2月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,300	140	100	70	4.94
今回発表予想(B)	12,300	93	106	151	10.65
増減額(B-A)	—	△47	6	81	
増減率(%)	—	—	6	15.7	
(ご参考)前期実績 (平成25年2月期)	14,943	△288	△280	△1,283	△90.55

修正の理由

景気は回復基調にありますが、消費増税や電力、社会保険等の負担増が予測される中、先行き不透明感があることも勘案し、通期業績につきましては、第2四半期累計期間業績と業績予想との差額を修正し、下期の業績については当初予想のとおりといたします。

なお、上期に引続き、新規店舗の出店を2店舗計画しており、また、既存店舗のリニューアルを5店舗程度実施し、業績の向上に努めてまいります。

※ 本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上